

「つながり」「ふれあう」まちづくり



播磨町長
佐伯 謙作

謹んで新春のお喜びを申し上げます。
皆様におかれましては、それぞれに清々しく穏やかな新年を迎えられたことと思います。
さて、2024年を振り返りますと、本場に様々なことが起きました。

元旦に発生した能登半島地震により、多くの方が大変な困難と試練に直面する年となりました。改めてお亡くなりになりました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の皆様にお見舞い申し上げます。また、復旧・復興にご尽力いただいております方々に深く敬意を表します。

この災害を通じて、防災・減災の取組みの重要性を再認識すると同時に、地域の「つながり」の大切さを痛感しました。播磨町においても引き続き「自助・共助・公助」が連携した安全・安心のまちづくりを進めてまいります。

また、平成元年に「共に生きよう ふれあいのまち」を宣言してから35年の節目を迎え、人権尊重のまちづくりをさらに深化させるために、「播磨町人権尊重のまちづくり条例」の制定に向けた取組みを進めています。インターネットやSNSが高度に発達し、私たちの暮らしは大変便利になりました。しかしその反面、不確かな情報が溢れ、顔が見えないネット上での誹謗中傷などが深刻な問題となっています。このような中、現実の社会でも、ネットの社会でも「あらゆる人権侵害を許さない」まちづくりをめざします。

いよいよ大阪で万博も開かれます。昭和100年にあたる本年も、時代を超えて脈々と受け継がれてきた「つながり」と「ふれあい」を大切にしながら、脱皮を繰り返し「成長」する巴のごとく着実に前進し、輝く未来を切り拓いてまいりたいと思っております。結びに、本年が皆様にとって笑顔と幸せに満ちた年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

議会が仕掛けるワンチームはりま



播磨町議会議長
河野 照代

新年を迎え播磨町議会を代表し謹んでご挨拶申し上げます。住民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。今年の干支「巳」は古来より豊穡や金運を司る神様として祀られ神聖な生き物として認識されてきました。脱皮するたびに表面の傷が治癒していく様から再生のシンボルとなっております。現在の日本も長引く円安不況から早く脱皮することを願うばかりです。

今年の大河ドラマは現在の「TSUTAYA」に名を冠する江戸のメディア王「葛屋重三郎」が主人公です。喜多川歌麿・葛飾北斎・東洲斎写楽を世に送り出し、時代の寵児となった彼の人生は、発想力の偉才であり努力の人でもあったようです。

時代は田沼意次から松平定信へと移り、財産の半分を没収されたにもかかわらず企画力・仕掛け力で浮世絵師たちをプロデュースして再び財を蓄えました。幕府に翻弄されようとも自己の才覚で現代にまで名を轟かせた物語は閉塞感のある現在の日本にヒントを与えてくれる予感がします。

播磨町議会も混迷の時代にあって「努力をすれば必ず報われる町」になるよう取り組んでまいります。

新しい時代の幕開けとなることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

あけまして
おめでとう
ございます

議長 河野照代
副議長 神吉史久
議員(議席順)

- 細田武男
- 大北良子
- 宮宅良
- 板谷良祐
- 竹内基就
- 奥田俊則
- 大瀧金三
- 木村晴恵
- 浅原俊也
- 藤原秀策
- 岡田千賀子



公職選挙法により、政治家は、年賀状などのあいさつ状を出すことが禁じられています。ご理解とご協力をお願いします。

